学んで 話して 楽しい にほんご教室

夢気球だより

「夢気球だより」編集部　発行
〒610-0121
城陽市寺田西ノ口7-4西邦ビル２階　城陽市国際交流協会内
電話　0774-57-0713
ご意見・投稿先　niciyama0323@gaia.eonet.ne.jp　＜西山雅文＞

日本語支援 ボランティア養成講座 5/11~7/13

受講生の声

５月11日から６月１日迄、毎週土曜日に国際交流協会で「養成講座の座学」が４回にわたって行われました。座学終了後は、４回以上の「学習者を交えた実習」が“協会とぱれっとＪＯＹＯ”で実施され、７月13日には18名の方が修了証書を受領されました。今回の研修は協会と協議の上で夢気球の運営委員会が中心となって開催した初めての講座となりました。

今号は受講生の各講義終了後の振り返り等（抜粋）を中心に編集しました。尚、全文は協会ホームページにアップ予定です。

（城陽市国際交流協会　URL：http://www.jiea.jp/）

（広報　村上弘芳）

座学４日間の振り返り

ボランティアの概念・生活者の為の日本語教育

・興味があって知りたいことが学べるので、この講座を受講できるのは大変嬉しい。

・しっかり話を聞いてもらえることは大変嬉しいことなので「オーム返し」は早速、これから話す人に使ってみたい。

・導入の話は非常にわかり易かったし、モチベーションが上がった。

・大変価値ある時間を過ごすことができた。地域で暮らしている外国人のことは「知っている様で知らない」。見えている様で何も見えていないことを自覚できた。次回が楽しみ。

・多文化共生についてよく理解できた。日本語教育については初めてなので困難が伴うと思うが、しっかり勉強して役立てたい。

・日本語を教える際の心構えや方法など実情が聞けて勉強になった。自分ができるか不安だったが少し前向きになった。いろんな分野に目を向けて勉強を続けることが必要だと思う。

入門レベルの教え方

・日本語を教える難しさを実感したが、表情・ジェスチャーにも気を使えば何とかなるかなと。

・共通語がないと、こんなにもコミュニケーションが取りづらいことがわかった、と同時にうまく媒介語を使うことも必要なんだなと思った。私も母語でない英語を教わったときの気持ちを考えて、楽しく勉強ができるといいなと思った。

・日頃、無意識に話している日本語を改めて見直さなければと反省した。なるべく、やさしく且つわかりやすい言葉を選ぶことは簡単な様で難しいことや、支援者も母国語を外国語の様に客観的に学ぶこと（捉えなおすこと）が必要であると感じた。

・学習者が言った言葉をつなげる様に話を続けたいと思う。会話が弾むように持っていくのは難しいと感じた。

・ペアワークで自分が支援者の役割のときに、質問ばかり考えていてとても時間が長く感じられた。

初級レベルの教え方

・文法から教えて行くのは、無理だと思った。会話の中から自然に覚えていくのでなければ退屈で難しい学習になると思う。気にすると自分まで話せなくなってしまいがちである。

・対面ではなく、横に座って教えることを心掛けたい。

・回を重ねる毎に興味が深まってきた。グループレッスンでは、話題の広げ方と、雑談に流れてしまわない様に舵取りの難しさを感じた。「言葉の引き出し方、発言のバランス、授業のテーマ等を意識しておくこと」が必要であると思った。

・授業の中で一つの目標を持って会話を広げていくことの難しさを感じた。その課題を解決する為には、「学習者と学習目標を共有することが大切」であり、教材選びも鍵となる。（相手のニーズ）

・動画を見て、支援者はスムーズに話をしているが、実際に自分がやってみるとイメージとは違ってくるなと感じた。ただ、楽しい雰囲気は頑張れば作れるのでそうして行きたい。

・話が途切れた場合の対応が難しいと思った。

中・上級レベルの教え方

・ロールプレーでは、役になりきって進めていく内に「母語ではない日本語を話す人にはもっと簡単な言葉で、ゆっくり話さないといけない」と感じた。難しいが楽しかった。

・村田先生による４回の授業がとても早く流れて行った様に感じている。次回からは実習が始まってしまい不安な気持ちで一杯だが、楽しみながら参加して行きたい。

・教え方にはいろいろあり、その難しさを再認識した。

・どのレベルの人を教えるにしても難しいと思っていた。実際難しいと思うが「楽しいから続けられる。自分らしいやり方で良い」との話を聞いて、少し気持ちが楽になった。

・後半の授業では対面での練習があり、実際に話してみることで相手に伝えることの難しさが良くわかった。

・４回受講できて嬉しく思っている。まだまだ、何もわからないが「千里の道も一歩から」なのでまず、６月14日の実践編を体験したいと思う。

・教育実習初体験への期待と不安が高まってきた。楽しみで、私自身も改めて日本語を学ぶ良い機会を得られそうである。

実習（最低４回）経験後の振り返り

・養成講座の動画で「やってはいけない一つ」に「何回も同じ答えを求めて反復練習をする」がありました。私もついつい「相手が理解できているのかを知りたくて、やってしまい」ました。力まず、八分目を心掛けて！（反省です）

・「ゆとりを持つ事、学習者の発言等をゆっくり聞く事、相手のペースに合わせる事等々」なかなか出来るまでには時間がかかりそうです。

・○○さんと一緒に支援させて戴き「学習者の背景の把握・ニーズに合った教材・学習方法に工夫が必要」であることを目の当たりにし、今後の参考となりました。

・学習者と接する時、こちらの人間力そのものが問われている様で非常に緊張しますが、同じ時間を過ごしている中で「学習者の真剣なまなざし、顔が輝く一瞬が大きな励み」となり、幸せをいただきました。

・日本で生活している「外国人の現状をもっと知る必要がある事」も痛感している。

・支援者にとっても「文化の違いにより、受け取り方が全く違うという事と、年齢による理解力や吸収力も異なるということを認識しておく必要がある」こともわかりました。

・マンネリ化を防ぐために「学ぶ喜びや、感動・意欲が持てる」ように工夫すること。

・実際に授業の組み立てを事前に考え、プリントを作って行いましたが「本当に難しかった」という印象です。授業を見学している時と「実際に自分が行う場合での違い」が良くわかりました。「質問に正しく答えられるか」や「間違ったことを言っていないか」等、不安ばかりでしたが○○さんのフォローも戴き、無事に終えた時は感激でした。

・ぱれっとＪＯＹＯでは、大部屋を４つに区切って４名の支援者が独自の方法で学習を進められていますが「お互いが見える関係にあり、相互に刺激し合える環境がモチベーションの向上」につながっているのではと感じました。

・合計４回の実習を終えました。中級クラスであった為に、特に問題もなく終えることができましたが「日本語を教える難しさ」は、充分実感する事が出来ました。

・学習者が「普段日本語を話さなければならない環境」であれば「少しでも早くクラスで学んだ事が役立つ」様になってもらいたいし、又「日本語を話す機会が無い環境」ならば「折角、日本に住んでいるのだから、少しでも話せる様にこの２時間を支援者等とコミュニケーションを沢山とってもらえる時間」にしたいと思いました。

・学習者から「直ぐに言葉が返ってこなくても辛抱する」。無意識としても「早目の助け舟をする」ことは避け、出来るだけ「学習者の口から日本語で喋ってもらう」ことが大事。

・村田先生が紹介された「海を渡った日本語」を読了し「戦争とは、その国の言葉を奪う事」と言った人がおられ、成程と思いました。実習で「赤く塗られた国（言葉を奪われた）の学習者と対面」した時には、今は「彼らの目的は違っているとわかってはいるものの、微妙に戸惑い」がありました。今後、支援者として活動していく際には「その戸惑いを忘れない様にして、彼らの側に立とう」と思い、又「日本語を通して日本の事も知ってもらって、日本を好きになって欲しい」と心から願います。

・実習３回を終えて「支援者の学習スタイルによって様々な教授法がある」ことを実感しました。「テキストに沿って淡々と教える方法・生活に沿った言葉をやさしい日本語を通して教える方法」等、講座のメンバーの方からも助言を戴いて「自分はどの様な方法で教えて行こうか等」考えを巡らす事ができました。

・色々な教え方を勉強、実践して「一番自分に合う方法を見つけて、わかり易い日本語で」授業が出来たらいいなと思いました。

・支援者と学習者、支援者同士でうまく連絡が取りあえていなかったので、コミュニケーションが必要だと思いました。支援者の方もあくまでボランティアなので、養成講座の方に教えるというスタンスは無い様で「勝手にどうぞ」という感じだったので、少し残念な部分もありました。

・授業の導入部の会話や勉強の切り替え、休憩時間の取り方など「授業の流れの主導権を握ること」が大切だと思いました。

・間違った、危ない日本語を使わない様に、学習者と共に「授業を通して、自分自身が学んでいるのだという姿勢」が、支援者（ボランティア）にとっては大事であり、忘れない様にして行きたいと思います。

養成講座のアンケートに関するご意見等

・日本語教材の講習をもう少し詳しく受けたい。

・全９回の講座でしたが、とても早く過ぎて行き、特に座学をもっと学びたい。

・「日本語支援とは何ぞや」という事がわかれば（座学でも実習でも）これで講座終了という事は理解できますが、何かこれでスタートしていいのか不安です。

・実際に始めた後に「出てくる様々な問題を抱えた時」に、研修を受けたい。

・実習はもう少し長く（例えば６回）して欲しい。初回～４回は見学、残り２回は自分で授業を組み立てる。他の支援者との意見交換の時間も欲しかった。

・座学の時にグループで日本語実践をしましたが、状況がうまく掴めなかったので、夢気球の方に「学習側の立場になって戴いて」雰囲気を味わったらどうでしょうか。

・色々なレベルのクラス、年齢、国の方々に触れあえる機会を望みます。

・外国人の方との実地会話の場が欲しい。

・他の文化を知る事ができた。「教えることは、学ぶこと」だと実感した。

・フィールドワーク等で、日本文化を実体験してもらうのも有益では？

・準備が必要だし、臨機応変に対応することも大事と感じた。

・実習で感じたことは「褒めることが大事」と。

支援者からの養成講座に関するご意見等

・養成講座の内容は「４回が理論で、４回が実践」とのことですが、理論が少ないと感じます。又、実習も２回見学して、３回目は30分以上の授業を行って観察機会を持ち、あと１回は内省改善機会が必要だと思います。次回の検討事項として考慮戴ければと。

・学習者と実習生の組み合わせが流動的となりましたが、多様な側面が体得できたと思います。

・実習生の「やる気と熱心さ」が見られ、やりがいがありました。

・実習生との目線が合い、自然なコミュニケーションの中で（同世代の良さか）文法を取り出すことが出来ていました。

・実習にあたって、特別なメニュー等は行わずに「普段通りに又、実習生の個性を生かして自然体で参加」してもらった。結果的に「学習者のニーズは充足され、自動車免許テストに１回で合格」という嬉しい結果を得ました。